

トピックス

手足口病(第 4 報)、ヘルパンギーナ(第 2 報)と咽頭結膜熱について

現在の状況

先週(第 28 週)もお知らせしましたように、手足口病とヘルパンギーナが今年も流行のピークを迎えています。また、全国的流行(第 27 週: 定点あたり報告数 0.49)にもかかわらず愛知県ではこれまで報告数が比較的少なかった(第 27 週で 0.30)咽頭結膜熱も定点(県内全体では 182 個所の小児科のある医療機関)あたりの患者報告数が先週(第 28 週)は 0.57 へ、今週(第 29 週)は 0.63 へと急激に増加しています。

1 手足口病

第 21 週(5 月 19 日~25 日)に先ず一宮保健所管内で定点(上記と同一の医療機関)あたりの患者報告数が 5.0 を越えたため警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加を続け、第 27 週(6 月 30 日~7 月 6 日)と第 28 週(7 月 7 日~7 月 13 日)には県内 17 の保健所管轄地域のうち 12 地域で、第 29 週(7 月 14 日~7 月 20 日)には加茂保健所管内が加わり、県内 17 の保健所管轄地域のうち 13 地域と、県内のほとんどの地域で警報が発令されています。

例年愛知県では 7 月第 1 週をピークとする流行が繰り返されていますが、今年も同時期に当たる第 27 週(6 月 30 日~7 月 6 日)の定点あたりの報告数が 6.4 と、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった平成 11 年度の最高値 3.91(第 27 週)よりも多くなりました。先週(第 28 週)の報告数は 6.0 と少し下がりましたが、今週(第 29 週: 7 月 14 日~7 月 20 日)の定点あたりの報告数は 6.69 と平成 11 年以降の最高値を記録しています。

2 ヘルパンギーナ

第 24 週(6 月 9 日~15 日)に師勝保健所管内で定点あたりの患者報告数が 6.0 を越えたため、警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加を続け、第 28 週(7 月 7 日~7 月 13 日)には 5 保健所管轄地域で、第 29 週(7 月 14 日~7 月 20 日)には岡崎市保健所管内が加わり、6 保健所管轄地域で警報が発令されています。

愛知県では平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 12 年の第 27 週(最高値 6.8)で、昨年も第 28 週が最高値(5.3)を示すなど、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 27 週(6 月 30 日~7 月 6 日)の定点あたりの報告数が 4.0 とこれまでのところは最高値を記録しており、先週(第 28 週)の報告数は 3.7 と少し下がりましたが、今週(第 29 週: 7 月 14 日~7 月 20 日)の定点あたりの報告数は 3.9 と再び増加しました。

3 咽頭結膜熱

第 24 週（6 月 9 日～15 日）に豊橋市と知多保健所管内で定点あたりの患者報告数が 1.0 を越えたため、警報が発令されました。その後、先週（第 28 週）になって、豊川、津島、江南保健所管内の 3 地域が加わり、5 保健所管轄地域で警報が発令されました。第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）現在も同じ地域で警報が発令されています。

平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 13 年第 29 週の（最高値 0.77）で、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）の定点あたりの報告数が 0.57 と、第 27 週の 0.30 から急激に増加し、今週（第 29 週：7 月 14 日～7 月 20 日）はさらに増加して 0.63 と、今まさにピークを迎えているような状況になっています。

病原体検出状況

病原体定点（小児科定点に指定されている医療機関の一部）の医療機関の方には、今年の手足口病、ヘルパンギーナ、及び咽頭結膜熱の病原体ウイルス解明の為に（昨年、手足口病（検査検体数 = 45）ではコクサッキー A16 が約 90%、エコー 13 型が約 10%でした。ヘルパンギーナ（検査検体数 = 40）ではコクサッキー A4 が約 81%、A5 と A10 が各約 6%、A6 と A16 が各約 3%でした。咽頭結膜熱（検査検体数 = 1）ではインフルエンザ AH3 が 1 株のみでした。）是非積極的な検査検体の提出をお願いします。具体的な検体採取、提出要領は管轄保健所へお問い合わせください。7 月 8 日現在、衛生研究所には手足口病患者 13 名からの各 1 検体が寄せられ、7 株のコクサッキー A16 型ウイルスが検出されています。また、ヘルパンギーナ患者 12 名からの各 1 検体が寄せられ、これらの検体からは 6 株のコクサッキー A6 型ウイルスが検出されています。咽頭結膜熱では患者 1 名からの 1 検体のみで、結果は陰性でした。

一方、7 月 16 日現在の全国における手足口病患者からの病原ウイルス分離報告数は、エンテロウイルス 71 型が 40 株、コクサッキー A16 型が 20 株、コクサッキー A10 型とコクサッキー B 型が各 1 株、その他のコクサッキー A 型が 5 株となっています。

このエンテロウイルス 71 型による流行は 1997 年にはマレーシアのサラワク州（ボルネオ島）で、1998 年と 2000 年には台湾でみられ、死亡者（それぞれ 30 名、50 名）も出ています。我が国でも 2000 年には、手足口病患者から分離された病原ウイルス 749 株のうち、エンテロウイルス 71 型が 50%程度を占めていましたが、2001 年（分離株数 390 株）及び 2002 年（同 422 株）にはコクサッキー A16 型が 70～80%程度を占め、エンテロウイルス 71 型は 10%以下でした。

下表に今年の 1 月以降全国のヘルパンギーナ及び咽頭結膜熱患者からの分離されている病原ウイルス報告数を示しました。

コクサッキー ウイルス（型）	A10	A6	A4	A2	A12	A16
株 数	19	15	13	2	1	1

アデノウイルス（型）	3	2	1	7	5	4	37
株 数	32	20	10	5	6	3	1

以下に、小児、特に 4～5 歳以下の乳幼児が主として罹る手足口病、ヘルパンギーナと咽頭結膜熱の特徴を簡単にまとめました。

主な症状・感染源・感染経路

1 手足口病

最初、軽い発熱（高くても 38 台）、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から 2 日くらい経過したころから、手のひら、足のうらに、小水疱が多発します。水疱の周囲の皮膚は、やや赤みを帯びています。舌や口腔粘膜にも小水疱は多発して潰瘍状（アフタ）の生ずることもあります。伝染性のウイルス性感染症で、主にコクサッキー A16 型、エンテロウイルス 71 型などのウイルスによって発症することがわかっています。主な感染経路は、糞便などの経口、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。症例の約 40%では発熱しないといわれています。

2 ヘルパンギーナ

夏風邪の一種であるこの病気は主として 6～7 月頃に流行し、患者の年齢は 4 歳以下がほとんどですが、特に 1 歳代がもっとも多く、ついで 2、3、4、それに、0 歳代の順と言われています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。

糞便から口を介してうつりますから、保育園など幼児が集団生活を送る場所での流行がよく発生します。

3 咽頭結膜熱

本疾患も夏風邪の一種で、主として 7～8 月頃に流行し、患者の年齢は 5 歳以下が 6 割程度を占めています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血などの眼症状を訴え、3～5 日間程度続きます。

感染経路は、ウイルスによって汚染されたプールの水を介した結膜への直接の侵入やタオルを介した感染、それに、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。

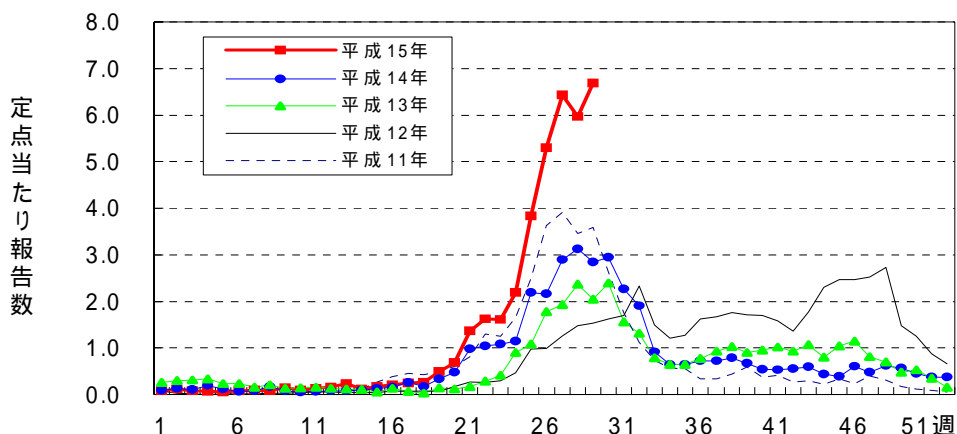
予防方法・主な合併症

手足口病では、水泡の中にウイルスが多く含まれるため、水泡をできるだけ潰さないようにすることと、内容液が出た場合は他に拡がらないように清潔に保つことが重要です。また、咽頭結膜熱では、プールを介しての流行もあるので、水泳の前後に必ずシャワーを浴びて病原体ウイルスを持ち込まない、持ち出さない注意やプール水の消毒の徹底なども大切です。3 つの疾患ともに感染しても症状の出ない人、症状の出る前（潜伏期間）の人から、咳・くしゃみや糞便の付着した手・物などを介して感染することがありますので、便・その他の排泄物を扱った後や食べ物を食べる前の手洗い、外出から戻った時のうがい等の実施を、日頃から習慣付けることが大切です。ウイルスの便への排泄は症状が治った後も 3～4 週間ほど続きますので、この間は「おしめ」などからもうつる可能性があり、注意が必要です。

これら 3 疾患はいずれも一般的には軽症の病気ですが、ごく稀には重症化して髄膜炎、脳炎、心筋炎、気管支炎、肺炎などになることが報告されています。経過中に発熱が続き、嘔吐、頭痛、咳等などの症状がおこってきた場合には、速やかに医療機関を受診されることをお勧めします。

流行状況

手足口病



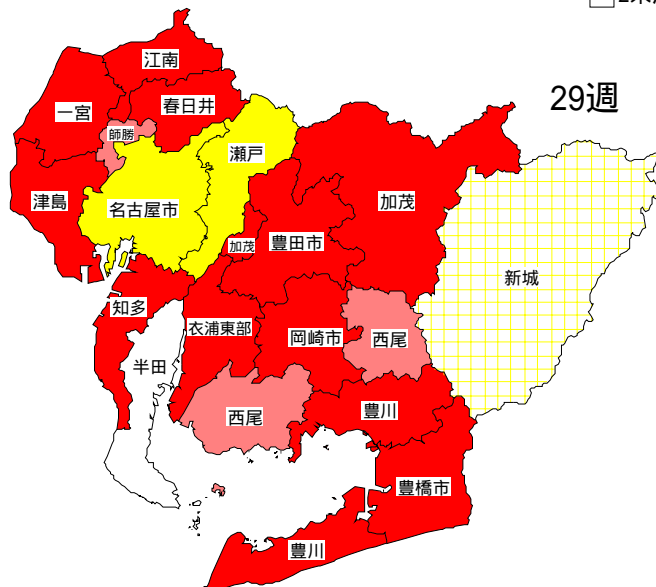
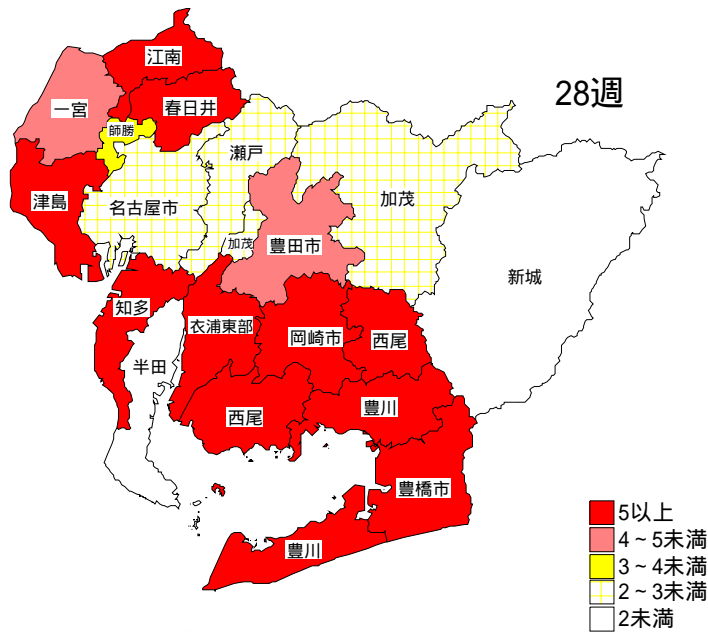
疾患名	前週	今週	備考
手足口病	6.0 	6.7 	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
ヘルパンギーナ	3.7 	3.9 	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.3 	1.0 	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症 外から帰った時には、必ず手洗いとうがいをしてください。
咽頭結膜熱	0.57 	0.63 	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
麻疹（はしか）	0.02 	0.03 	予防にはワクチンが有効
マイコプラズマ肺炎	0.31 	0.38 	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 2定点からコメントでの患者発生報告あり
無菌性髄膜炎	- 	- 	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと 2定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
横ばい	増加	減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

手足口病の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

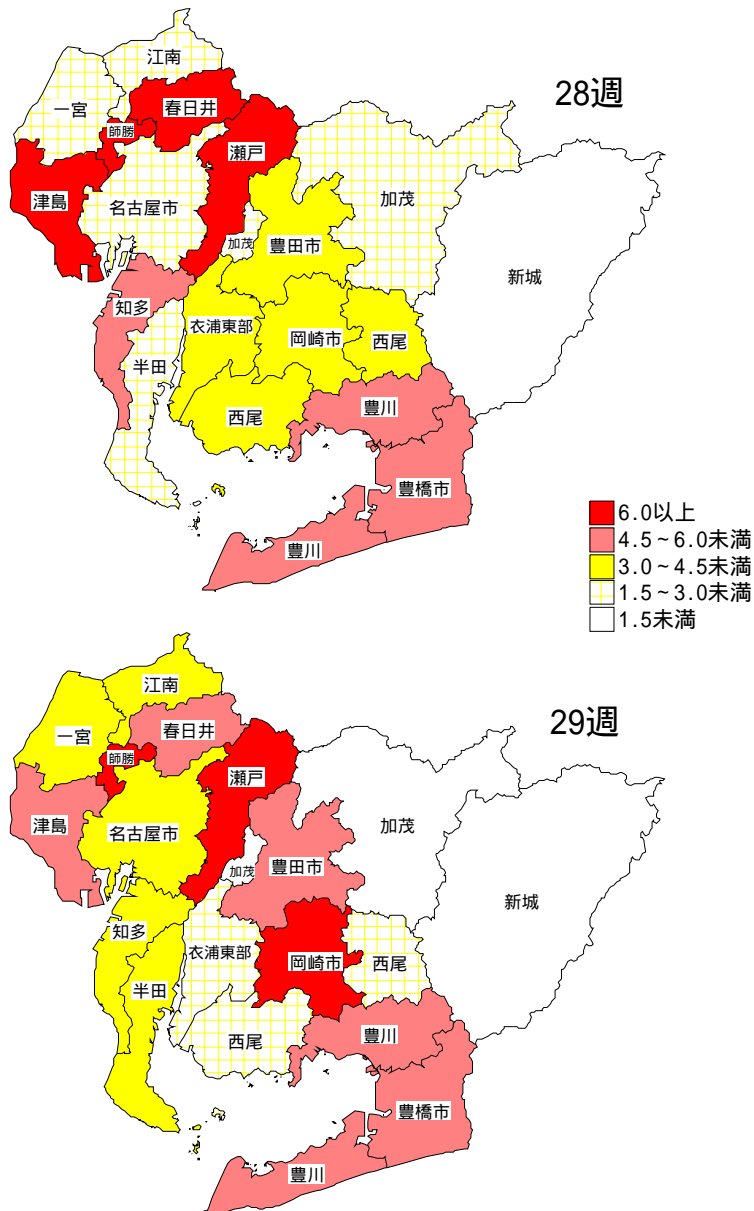


	29週	定点 当たり	28週	定点 当たり		29週	定点 当たり	28週	定点 当たり
名古屋市	213	3.04	148	2.11	岡崎市	57	8.14	52	7.43
瀬戸	30	3.33	21	2.33	衣浦東部	130	11.82	119	10.82
津島	115	16.43	144	20.57	西尾	20	4.00	31	6.20
師勝	19	4.75	15	3.75	豊田市	51	6.38	39	4.88
一宮	66	5.50	58	4.83	加茂	17	5.67	7	2.33
春日井	82	9.11	97	10.78	豊橋市	157	19.63	145	18.13
江南	66	11.00	58	9.67	豊川	146	18.25	107	13.38
半田	7	1.17	5	0.83	新城	5	2.50	1	0.50
知多	36	5.14	39	5.57					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる手足口病の流行発生警報は保健所(市)定点当たり5.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

ヘルパンギーナの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

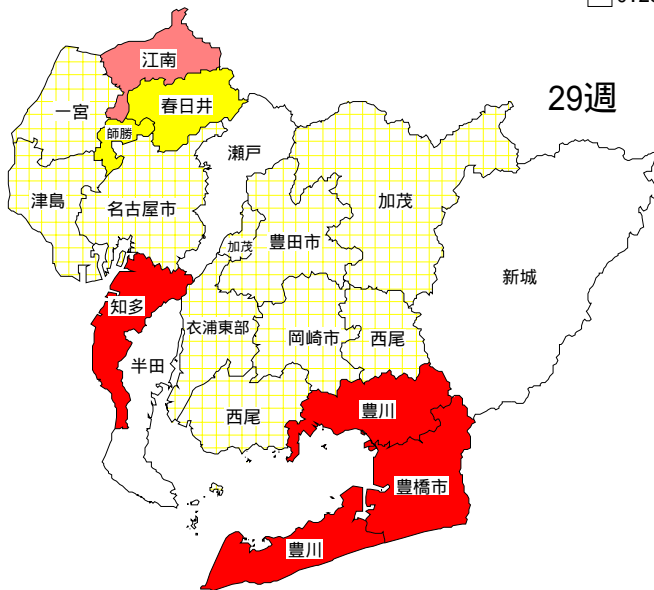
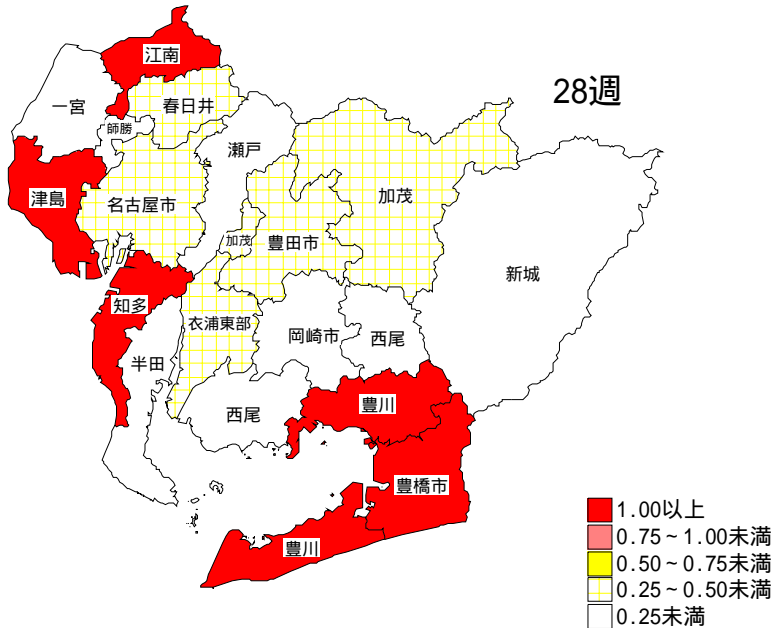


	29週	定点 当たり	28週	定点 当たり		29週	定点 当たり	28週	定点 当たり
名古屋市	217	3.10	196	2.80	岡崎市	42	6.00	31	4.43
瀬戸	65	7.22	55	6.11	衣浦東部	31	2.82	37	3.36
津島	37	5.29	46	6.57	西尾	8	1.60	18	3.60
師勝	37	9.25	28	7.00	豊田市	40	5.00	35	4.38
一宮	36	3.00	20	1.67	加茂	3	1.00	5	1.67
春日井	52	5.78	57	6.33	豊橋市	40	5.00	36	4.50
江南	24	4.00	16	2.67	豊川	37	4.63	37	4.63
半田	18	3.00	17	2.83	新城	0	0.00	0	0.00
知多	31	4.43	41	5.86					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるヘルパンギーナの流行発生警報は保健所(市)定点当たり6.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	29週	定点 当たり	28週	定点 当たり		29週	定点 当たり	28週	定点 当たり
名古屋市	31	0.44	21	0.30	岡崎市	3	0.43	0	0.00
瀬戸	2	0.22	1	0.11	衣浦東部	5	0.45	3	0.27
津島	3	0.43	10	1.43	西尾	2	0.40	0	0.00
師勝	2	0.50	0	0.00	豊田市	3	0.38	3	0.38
一宮	3	0.25	0	0.00	加茂	1	0.33	1	0.33
春日井	5	0.56	4	0.44	豊橋市	10	1.25	25	3.13
江南	5	0.83	9	1.50	豊川	14	1.75	16	2.00
半田	0	0.00	1	0.17	新城	0	0.00	0	0.00
知多	26	3.71	10	1.43					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 3歳女、4歳男、6歳男、8歳男

病原性大腸菌O25 34歳女

病原性大腸菌O153 5歳女、7歳男

病原性大腸菌O166 2歳男

エンテロウイルス感染症の増加目立ちます。

【尾西市 城後小児科】

発熱の児多いです。1～2日で解熱、年長児にもあり。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

おたふくの予防接種をしていたが罹患

【一宮市 後藤小児科医院】

病原性大腸菌ではO126が目立ちます。

アデノウイルスと思われる咽頭炎が流行しています。

結膜炎は目立ちません。

【犬山市 武内医院】

手足口病の流行が続いています。

ヘルパンギーナが増加してきました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

手足口病非常に多い。

水痘も多発しています。

その他に、発疹を伴い、38.0位の一日の発熱を伴う例多くみられます。(手足口病とは似て非なる。)

無菌性髄膜炎は3例でした。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

再び手足口病、ヘルパンギーナが流行して参りました。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

相変わらずヘルパンギーナ、手足口病が多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナ非常に多数みられます。

手足口病も増加傾向です。

溶連菌感染症は落ち着いてきたようです。

その他、水痘、流行性耳下腺炎散発

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

3歳 カンピロバクター腸炎

手足口病やや減

ヘルパンギーナ増

咽頭結膜熱 1例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

水痘、ムンプス流行している。

無菌性髄膜炎小流行続いている。

【小牧市 小牧市民病院】

マイコプラズマ 3歳男
手足口病が多いようです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
鼻水、咳を主訴とする児が多かった様に思えます。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】
咽頭結膜熱が流行しています。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

7ヵ月女 病原大腸菌O1

6歳女、13歳男 カンピロバクター腸炎

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

10ヵ月男 4S（ブドウ球菌性熱傷用皮膚症候群）

【岡崎市 医療法人深田小児科】

1歳女 カンピロバクター（+）

【岡崎市 花田こどもクリニック】

4歳男 ICアデノ*（+）

【岡崎市 にいのみ小児科】

* ICアデノ：アデノウイルス検出キット

手足口病、ヘルパンギーナの流行が続いています。

【刈谷市 まついこどもクリニック】

手足口病が多く、今シーズン2回目の患児1名

【知立市 宮谷クリニック】

4歳男 病原性大腸菌O1 VT（-）、カンピロバクター

3歳男 カンピロバクター

9歳女 病原性大腸菌O1 VT（-）

【幸田町 とみた小児科】

4歳女 病原性大腸菌O1

手足口病はやや減ってきました。

【西尾市 やすい小児科】

8歳男、13歳男、9歳男 異型肺炎

手足口病が流行しています。

【三好町 三好町民病院】

学童のマイコプラズマ肺炎が散発しています。

【三好町 医療法人三好丘こどもクリニック】

東三河地区

手足口病が流行中です。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

4歳男 帯状疱疹

【豊橋市 野村小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年 齢	性 別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備 考
1	一宮	20	女		7 / 14	7 / 14	O 157 VT2(+)	
2*	半田	3	男	7 / 8	7 / 10	7 / 14	O 157 VT1(-) VT2(+)	前週報告分 の再掲
3	半田	1	男	7 / 6	7 / 11	7 / 16	O 157 VT1(+) VT2(-)	前週報告分 の再掲
4*	半田	4	女	7 / 13	7 / 14	7 / 18	O 157 VT1(-) VT2(+)	
5*	半田	0	男		7 / 14	7 / 18	O 157 VT1(-) VT2(+)	
6*	半田	71	女		7 / 15	7 / 19	O 157 VT1(-) VT2(+)	
7	豊川	24	男	7 / 12	7 / 14	7 / 19	O 157 VT2(+)	

* 番号 2 及び 4～6 の患者発生報告は家族内感染

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

急性ウイルス性肝炎 C型 1例

急性ウイルス性肝炎 A型 1例(28週分の追加報告)

第27週(15年6月30日~7月6日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(2.5)、富山県(2.1)、三重県(1.2)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は微減したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県(4.3)、富山県(2.5)、山口県(2.4)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は前週と同値の0.18で、過去4年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山形県(1.2)、岡山県(1.0)、岩手県(0.9)が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では広島県(20.7)が非常に多く、次いで静岡県(9.7)、岐阜県(8.3)、島根県(8.2)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では北海道(1.1)、長野県(1.0)、宮城県(0.9)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は大きく増加し、都道府県別では三重県(11.0)、山口県(10.2)、宮城県(10.0)が多い。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は微減し、都道府県別では栃木県(0.4)、和歌山県(0.4)、宮城県(0.3)が多い。急性出血性結膜炎の定点当たり報告数は微減して0.03で、都道府県別では宮崎県(1.3)が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は微減して1.01で、都道府県別では奈良県(2.4)が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加して0.16で、都道府県別では奈良県(1.0)、和歌山県(0.9)、大阪府(0.7)、広島県(0.7)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第29週(平成14年12月30日～平成15年7月20日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	47,885	829	6,213	24,681	10,318	7,012	1,067	3,642	39	42	4,237	109	3,205	29	663	1	5	8	103	0	3
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	38,580	615	4,502	16,935	8,278	6,005	844	2,925	30	26	2,945	83	2,562	24	501	1	5	7	99	0	3
名古屋	70	70	11	14	1	9,305	214	1,711	7,746	2,040	1,007	223	717	9	16	1,292	26	643	5	162			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	2,755	51	701	1,009	376	124	20	166	3	1	326	4	299	1	31						
海部津島	津島	7	7	2	2	1,341	40	83	1,189	450	735	47	143	1		177	1	102		16			9			
尾張中部	師勝	4	4	1	1	1,378	7	99	1,034	114	130	17	71		5	311	1	91		10						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	2,712	17	335	2,068	671	545	102	352	5	1	192	2	196	1	15			1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	4,291	43	359	1,140	518	515	109	253	3	2	262	3	241	1	36	1	2	2			1
	江南	6	6	1	2	1,520	30	272	1,577	479	470	70	210	1	1	109		82		26						
知多半島	半田	6	6	1	2	1,915	16	165	613	174	47	10	157		1	113	1	175		12		1		10		2
	知多	7	7	2	2	2,364	73	415	1,147	567	193	48	217		1	215	27	63	2	29						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	4,159	12	274	172	842	399	78	337	4		228	1	358	3	45						
	衣浦東部	11	11	2	4	5,878	37	346	1,142	1,039	588	83	272	4	1	259	9	449		77			2	7		
	西尾	5	5	1	2	1,190	11	213	603	398	253	65	118	1	1	108	2	123		36			1	5		
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	2,409	30	202	1,130	753	237	34	168	5	10	199	8	219	7	87			1	27		
	加茂	3	3		1	489	15	198	382	129	67	5	35		2	50		35								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	3,088	178	537	2,307	799	845	88	242	1		195	14	35	7	54		2		18		
	豊川	9	8	1	2	2,839	55	301	1,422	923	839	68	167	2		200	7	78	2	27				23		
東三河北部	新城	2	2		1	252		2		46	18		17			1	3	16								

* 衣浦東部保健所より24週分の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第29週(平成14年12月30日～平成15年7月20日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	38,580	615	4,502	16,935	8,278	6,005	844	2,925	30	26	2,945	83	2,562	24	501	1	5	7	99	0	3
～6ヶ月	518	4	8	190	211	43	4	239	4		40		2		1	/	/	/	/	/	/
～12ヶ月	1,096	19	22	1,089	487	273	32	1,775	9	1	261	12	16		11	/	/	/	/	/	/
0歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1		1	/	/
1歳	3,227	109	113	2,623	1,472	1,039	52	842	6	3	731	19	113		12				10		
2歳	3,245	92	257	1,936	1,403	1,017	74	59	3	2	520	6	186	1	12				9		
3歳	3,321	104	548	1,910	1,529	1,162	92	4	1	1	544	6	389	2	16				10		
4歳	3,516	85	850	1,695	1,477	1,056	121		3	2	387	5	519		8				9		
5歳	2,262	74	854	1,314	897	693	122		1	5	255	3	501	1	12	/	/	/	/	/	/
6歳	1,825	38	668	957	376	319	115	2			101	7	302		1	/	/	/	/	/	/
7歳	1,466	33	366	748	150	142	67		1	3	37	2	173		3	/	/	/	/	/	/
8歳	1,304	21	264	616	100	88	69	3		3	19	2	122		5	/	/	/	/	/	/
9歳	1,336	11	149	475	54	36	28			1	21	2	66		3	/	/	/	/	/	/
5歳～9歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2		18	/	/
10歳～14歳	4,859	8	200	1,075	81	55	51	1	2	1	13	14	103	1	22				19		
15歳～19歳	1,573	2	16	292	8	5	1				3	3	10		21				2		
20歳～	/	15	187	2,015	33	77	16			4	13	2	60		/	1	4	/	/	/	/
20歳～29歳	2,768	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	9	80	/	/	2	5		2
30歳～39歳	3,054	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	103	/	/	1	7		
40歳～49歳	1,182	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	52	/	/	2	4		1
50歳～59歳	892	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	68	/	/		1		
60歳～69歳	597	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	40	/	/		2		
70歳～	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	31	/	/		/		/
70歳～79歳	352	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1		
80歳以上	187	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1		

* 衣浦東部保健所より24週分の追加報告あり